

いには日蓮にあひて佛果をうべき歟。不輕菩薩の上慢の四衆のごとし。夫第五卷は一經第一の肝心なり。龍女が卽身成佛あきらかなり。提婆はこゝろの成佛をあらはし、龍女は身の成佛をあらはす。一代に分絶たる法門也。さてこそ傳教大師は法華經の一切經に超過して勝れたる事を十あつめ給たる中に、卽身成佛化導勝とは此事也。此法門は天台宗の最要にして卽身成佛義と申て文句の義科也。眞言・天台の兩宗の相論なり。龍女が成佛も法華經の功力也。文殊師利菩薩は唯常宣說妙法華經とこそかたらせ給へ。唯常の二字は八字の中の肝要也。菩提心論の唯眞言法中の唯の字と、今の唯の字といづれを本とすべきや。彼の唯の字はをそらくはあやまり也。無量義經云、四十餘年未顯眞實。法華經云、世尊法久後要當眞實。眞實は皆是眞實とて、法華經にかぎりて卽身成佛ありとさだめ給へり。爾前經にいかやうに成佛ありともつけ、權宗の人々無量にいひくるふ(言狂)とも、たゞほうろく(焙烙)干につち(槌)一なるべし。法華折伏破權門理とはこれなり。尤もいみじく祕奥なる法門也。又天台の學者、慈覺よりこのかた、玄・文・止の三大部の文をとかくれうけん(料簡)し、義理をかまうとも、去年のこよみ昨日の食のごとし。けう(今日)の用にならず。末法